



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント・
編集後記・目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント・編集後記・目次・裏表紙ほか. 物性
研究 1971, 16(5): 603-609

ISSUE DATE:

1971-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88303>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和46年3月20日発行 (毎月1回20日発行)
物性研究 第16巻 第5号

vol. 16 no. 5

物性研究

1971 | 8

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文・研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本紙に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方はProgress, Journalの投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとrr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文・研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本紙に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方はProgress, Journalの投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとrr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

人のうごき

(東大教養)

唐 木 幸比古 氏 7月1日より東大計算機センターの助手に就職。
浅 野 太 郎 氏 8月31日 プリンストン大学へ。
斉 藤 基 彦 氏 9月1日 マンチエスター大学へ。

ニュース

(東大教養)

物性コロキウム

6/24 金 久 誠 氏 不純物帯電子の帯磁率における相関
効果
7/1 土 井 高 夫 氏 Te のバンド構造
7/8 楠 正 美 氏 貴金属の蛍光における多体効果

6/30 Dr. C De Dominicis

Statistical Mechanics in Terms of Correlation
Functions

- Renormalization, Stationary Formulation
and Entropy -

人のうごき

(東大教養)

唐 木 幸比古 氏 7月1日より東大計算機センターの助手に就職。
浅 野 太 郎 氏 8月31日 プリンストン大学へ。
斉 藤 基 彦 氏 9月1日 マンチエスター大学へ。

ニュース

(東大教養)

物性コロキウム

6/24 金 久 誠 氏 不純物帯電子の帯磁率における相関
効果
7/1 土 井 高 夫 氏 Te のバンド構造
7/8 楠 正 美 氏 貴金属の蛍光における多体効果

6/30 Dr. C De Dominicis

Statistical Mechanics in Terms of Correlation
Functions

- Renormalization, Stationary Formulation
and Entropy -

プレプリント案内

(東北大工・桂研)

M. Takahashi,

Exact Solution of the One-Dimensional Electron Gas with
Delta - Function Interaction at Finite Temperature.

J.G.Ramos and A.A.Gomes,

Remarks on the Retarded, Advanced and Thermodynamics
Green's Functions.

J.G.Ramos and A.A.Gomes,

Remarks on Decoupling Procedures in Green's Function
Theory of Ferromagnetism For $S = 1/2$

Y.Karaki,

Relation Between the Distribution of Zeros of Partition
Function and Phase Transition in the Ising Model.

M.F.Collins,

Series Expantions for High-Temperature Dynamics of
Heisenberg Paramagnets.

J.Bernasconi and Franz Rys,

Critical Behavior of a Magnetic Alloy.

M. Takahashi,

One-Dimensional Hubbard Model at Finite Temperature.

M. Suzuki,

On Absence of Spontaneous Magnetization in One-and
Two - Dimensional Heisenberg Ferromagnets.

プレプリント案内

R. J. Baxter,

Partition Function of the Eight-Vertex Lattice Model.

R. J. Baxter,

One-Dimensional Anisotropic Heisenberg Chain.

M. Suzuki,

Relationship among Exactly Soluble Models of Critical Phenomena I—2D Ising Model, Dimer Problem, and the Generalized X Y-model —

海外だより

堀一淳氏から松田博嗣氏へ

松田博嗣 様

1971. 7. 12.

今イタリアの Trieste の国際理論物理センター (I . C . T . P) に来ています。7月の末にフランスの Rennes で開かれる Phonon の 国際会議に出席するため出かけるほかは、8月末までここに滞在する予定です。ここを訪れるのは素粒子、原子核関係の人が多いのですが、物性関係でも昨年春松原、豊沢の両氏が来られましたし、それ以前にも来られた方がいるかもしれません。しかし多分物性関係で比較的長期間滞在するのは私が始めてではないかと思えますので、折にふれて I . C . T . P について報告しましょう。

I . C . T . P は Trieste の町から 8 Km ほど離れたところにある、Miramare公園という広大で又美しい公園のとなりにおいて、緑濃い森に囲まれた静かな一角です。町からここまでは sunbather たちが群がる海水浴場がずっと続いていて、毎日ホテルから大いに眼の保養をしながら通っています。海水浴場が今シーズンの最盛期であるのと平行に、I . C . T . P も夏

の学校やシンポジウムの最盛期で、目下多分50~60人の理論物理屋が集まっています。とくに、developing countries の若い研究者を養成して、これらの国における理論物理の水準を高めるのが I. C. T. P の最大の目的の1つになっているので、アジア・アフリカの新興国の人たちも多く、国際的な雰囲気になっています。来てから一週間もたない中に韓国、インドネシア、タイ、インド、パキスタン、ガーナ、イスラエル、スペインなどの人たちとも知り合いになり、I. C. T. P のカフェテリアや町のレストランでよくぶっかけて、いろいろ面白い話をきいています。今私と同じ部屋にいるのは素粒子をやっているパキスタンの Bari 氏と、格子力学をやっているオランダの Suit 氏で、今朝はバスの中で Suit 氏と一諸になり、融解の問題を今つついているのだがそれについてのあなたの idea をきかせてほしいといわれて閉口しました。I. C. T. P に着いてさっそく彼のやろうとしていることをきいて、一応即席の意見をいっておきましたが、日本でも松田さんをはじめ多数の人が融解の問題に興味をもっていて、研究会なども開かれているといいましたら、松田さんなどのそれについてのリプリントかプレプリントがあったら送ってもらってくれとたのまれました。折返し私あて文献をお送りいたさければ有難く存じます。彼の idea は、ランダムに hole が入った結晶の分散曲線を計算し、音速が0になるような hole の濃度を求めたらどうか、というのですが、如何なものでしょうか。

今年は固体物理の夏の workshop というのが開かれていて、現在すでに Waller, Grimval, Flores, Lukes などが来ています。近いうちに Lundqvist をはじめもっと多数の研究者が来るはずです。今のところ Waller 先生がもっぱら世話役をやっていて、先週は Lukes が3回にわたって固有関数の localization の話をしました。Anderson モデルにおける電気伝導の計算で、2体 Green 関数を計算することによって band の中心で伝導度が0になる V/W の臨界値の上下限を求めると、上限として Anderson の得た V/W の臨界値に近い値が得られ、したがって Anderson の意味での localization が起ることと、電気伝導が0になることは同等であることになる、というのが彼の主張です。今週は私が phase theory からみた localization の話と、札幌で藤田君と少しづつやっていた Anderson の self-energy と state

海外日より

ratio および secular matrix の主小行列式との関係の話，それにこちらへ来てから少し考えた next nearest neighbour interaction がある場合の degree of localization の measure の話をすることになっています。Anderson の localization と我々が考えている localization との関係を明らかにすることは大問題で，これらの話がそのいとぐちになり得るかどうかもまだ見通しがたったわけではありませんが，Waller 先生がぜひ話をしろというし，さゝやかながらきちんとした結論が得られていることだからまあいいだろうというわけです。これらのことについて先週 Lukes と大分議論しましたが，彼は phase theory をほとんど知らないのになかなか suggestive な意見をいってくれて大いに参考になりました。Lukes は Economou-Cohen の仕事などにも興味をもっており，松田さんや石井さんがここにいたらもっともっと議論がはずむだろうに，と残念に思っています。

来てから 2, 3 日は全くフリーで，久しぶりに思う存分自由をたのしみながらゆったりした気分でものを考えることができましたが，先週末からはイスラエルの Cohen につかまって b. c. c と f. c. c 格子における impurity-induced absorption の計算についての意見をきかれたり，その他上記のような次第で，結構忙しくなりました。しかしそれはそれで得ることが大いにありますし，何よりも administration からの解放感は最もありがたいものです。Trieste は気候もよいし，たべものもうまいし，国際会議に行くよりもここでゆっくりものを考えたり，いろんな人との接触をたのしんでいる方がいいような気がしてきましたが，まあ行けばそれだけのことはあるだろう，とともすれば不精になりがちな気分にもちをうっている次第です。

堀 淳 一

正 誤 表

物性研究 1971 6月 Vol 16 №3 p380

1 次元 Ising 模型の状態和の零点分布 -

第 2 近接相互作用と一般の S の場合

東北大・工 桂 重俊・大南 正人

頁	行	誤	正
386	1	$\begin{pmatrix} e^{K+C} e^{C/2} & e^{-K} \\ e^{C/2} & 1 \\ e^{-K} & e^{-C/2} \end{pmatrix}$	$\begin{pmatrix} e^{4K+C} e^{C/2} & e^{-4K} \\ e^{C/2} & 1 \\ e^{-4K} & e^{-C/2} \end{pmatrix}$

誤

$$\lambda^3 - \{e^K(e^C + e^{-C}) + 1\} \lambda^2 + \{(e^K - 1)(e^C + e^{-C}) + (e^{2K} - e^{-2K})\} \lambda - e^{-2K}(e^K - 1)^3(e^K + 1) = 0$$

正

$$\lambda^3 - \{e^{4K}(e^C + e^{-C}) + 1\} \lambda^2 + \{(e^{4K} - 1)(e^C + e^{-C}) + (e^{8K} - e^{-8K})\} \lambda - e^{-8K}(e^{4K} - 1)^3(e^{4K} + 1) = 0$$

387 Fig. 4 図中の数字

誤	-1.0	-0.1	-0.01	0.0	0.01	0.1	1.0
正	-0.25	-0.025	-0.0025	0.0	0.0025	0.025	0.25

掲 示 板

基 研 計 算 費 に 関 す る 公 募

京都大学基礎物理学研究所

所 長 牧 二 郎

昭和46年度第2回目の小額計算費使用計画を下記の要領で募集します。

記

1. 使用条件

- a. 1件当り3万円以内

使用期間は1971年9月より1972年3月末日迄

- b. 基礎物理学の研究のための計算であること。

- c. 小額計算費の趣旨に沿っていること。

- d. 使用後必ず報告すること。

* 1970年7月2日, 3日, 1971年7月1日, 2日の基研
研究部員会議議事録参照

2. 申し込み受付け

1971年9月1日より11月末日迄

但し予算額(15万円)に達したら受付けを締切ります。

3. 応募方法

名前, 所属, 研究課題名と研究計画をA4版1枚に書いて
(21 cm × 30 cm)

下記宛お申し込み下さい。(黒インキ使用のこと)

606 京都市左京区北白川追分町

京都大学基礎物理学研究所

計 算 費 委 員 会

附 記

1. 別に1971年12月~1972年2月に申し込みを受付ける枠15万円の予算があり, その募集を11月に行います。(使用は1971年度内)
2. 研究部員会議で「基研は計算費の超過使用分は支払わない」と決められており, 従って超過分は使用者の側で支払ってもらうことになります。
3. 同一の研究室から多数の申し込みがあるとか, 同じ研究者の申し込みが続く場合等には計算費委員会^審で調整させていただきます。

編 集 後 記

こゝ数年来、若手研究者の就職事情はとみに悪化している。10年程前の理工系増員ブームによっておゝいかくされて来た矛盾は更に拡大された形で露呈された。資本主義社会自身と同様、その一部である研究者社会も常に拡張していないと破綻を来すことは当然まぬがれえない。その結果生ずる研究上のひずみ——歪んだ業績主義等も一層激しくなることだろう。研究者のサラリーマン化も著しくなるに違いない。

そのような状況下での本誌の使命は前号編集後記H.M.氏のいわれるように「真実を求めるための研究活動を互にぶっつけあう生々しい場」であることは大変意義深いが、もう一面、数年前の「研究体制特集」のような性格の重要性も増して来ている。

今日はオリジナルではないが物性若手グループ事務局の御厚意により、「物性若手グループニュース<就職問題特集号>」（71年6月）から資料を転載させて頂いた。前の特集の地方大学や共同利用研の問題と共に活潑な議論が起ることを期待しています。

(T.O)

物 性 研 究

第 16 卷 第 5 号

1971年8月20日発行

発行人 松 田 博 嗣

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所

京都市上京区上長者町室町西入

TEL (44) 1659 (43) 4789

発行所 物性研究刊行会

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内

編 集 後 記

こゝ数年来、若手研究者の就職事情はとみに悪化している。10年程前の理工系増員ブームによっておゝいかくされて来た矛盾は更に拡大された形で露呈された。資本主義社会自身と同様、その一部である研究者社会も常に拡張していないと破綻を来すことは当然まぬがれえない。その結果生ずる研究上のひずみ——歪んだ業績主義等も一層激しくなることだろう。研究者のサラリーマン化も著しくなるに違いない。

そのような状況下での本誌の使命は前号編集後記H.M.氏のいわれるように「真実を求めるための研究活動を互にぶっつけあう生々しい場」であることは大変意義深いが、もう一面、数年前の「研究体制特集」のような性格の重要性も増して来ている。

今日はオリジナルではないが物性若手グループ事務局の御厚意により、「物性若手グループニュース<就職問題特集号>」（71年6月）から資料を転載させて頂いた。前の特集の地方大学や共同利用研の問題と共に活潑な議論が起ることを期待しています。

(T.O)

物 性 研 究

第 16 卷 第 5 号

1971年8月20日発行

発行人 松 田 博 嗣

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所

京都市上京区上長者町室町西入

TEL (44) 1659 (43) 4789

発行所 物性研究刊行会

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内

SUPPLEMENT

of the

Progress of Theoretical Physics

- 1955 No. 1. Collected Papers on Meson Theory. I (Introduction by S. Tomonaga)
 No. 2. Collected Papers on Meson Theory. II (Introduction by H. Yukawa)
- 1956 No. 3. Meson Theory. III—*Nuclear Forces*—(Introduction by M. Taketani)
- 1957 No. 4. Relativistic Hydrodynamics of the Dirac Matter..... T. Takabayasi
- 1958 No. 5. Anomalous Magnetic Moment of the Nucleon E. Yamada
 Pion Theory of the Anomalous Magnetic Moment of the Nucleon ..
 H. Hasegawa
 Phenomenological Theory of Pion-Nucleon Reactions
 S. Hayakawa, M. Kawaguchi & S. Minami
 A New Mathematical Formulation of Quantum Mechanics in the
 Framework of Wave-Packet Theory M. Namiki & R. Iino
- No. 6. Origin of Cosmic Rays S. Hayakawa, K. Ito & Y. Terashima
 The Lateral and the Angular Structure Functions of Electron Showers
 K. Kamata & J. Nishimura
- No. 8. Hypothetical Velocity Measurements of a Dirac Particle..... Z. Koba
 Some Feasible Tests of Quantum Electrodynamics at Small Distances
 S. C. Frautschi
 Nuclear Moments and Configuration Mixing
 H. Noya, A. Arima & H. Horie
- 1959 No. 9. Non-Linear Field Theory (Introduction by H. Yukawa)
 No. 10. High Polymers (Introduction by J. Furuichi)
 No. 11. A Composite Theory of Elementary Particles Y. Yamaguchi
 A Model of Strong Interactions Y. Yamaguchi
 Present Status of the Low Energy Nuclear Physics—*Note of a Lecture*
Given at the Institute for Nuclear Study, Tokyo University, on
September 7, 1959— V. F. Weisskopf
 The Wave Packet Interpretation of the Scattering T. Sasakawa
- No. 12. Exciton Problem (Introduction by T. Muto)
- 1960 No. 13. General Theory and Numerical Tables of Clebsch-Gordan Coefficients
 T. Shimpuku
 Spinor Field and Its Transformations Z. Tokuoka
- No. 14. Properties of *d*-Electrons in Complex Salts
 M. Kotani, Y. Tanabe & S. Sugano
- No. 15. Many-Body Problem
 N. Fukuda & Y. Wada; T. Kato, T. Kobayashi & M. Namiki
- No. 16. Cosmic-Ray Physics
 I.N.S. AS group; I.N.S. Emulsion group; S. Hayakawa et al.
- 1961 No. 17. Biophysics S. Oka et al.
 No. 18. Parametric Integral Formulas and Analytic Properties in Perturbation
 Theory N. Nakanishi
 Wightman Functions, Retarded Functions and Their Analytic Con-
 tinuations H. Araki
- No. 19. Structure of Elementary Particles S. Sakata et al.
- No. 20. Origin of Cosmic Rays V. L. Ginzburg & S. I. Syrovatsky
 Steller Evolution C. Hayashi & Y. Ōno
- 1962 No. 21. Isoscalar Electromagnetic Structure of Nucleon
 K. Kawarabayashi & A. Sato
 Effects of the Pion-Pion Interaction on Photonuclear Reactions
 M. Kawaguchi & H. Yokomi
 Phenomenological Theories of Elementary Particle Resonant States
 S. Minami

- Consequences of a Simple Model for Two-Channel Reactions in Field Theory.....Y. Fujii & M. Uehara
- No. 22. Evolution of the Stars.....C. Hayashi, R. Hōshi & D. Sugimoto
- No. 23. Lattice Vibrations of Imperfect Crystals.....M. Toda et al.
- No. 24. Magneto-Fluid Dynamics.....I. Imai et al.
- 1963 No. 25. Vibrational and Rotational Transitions in Molecular Collisions
.....K. Takayanagi
- No. 27. Nonrelativistic Scattering Theory T. Sasakawa
- No. 28. Simple Lie Algebras of Rank 3 and Symmetries of Elementary Particles
in the Strong Interaction M. Konuma, K. Shima & M. Wada
- 1964 No. 29. Concepts of Space-Time in Physical Theories..... T. Tati
Is the Space-Time Concept not Presupposed Really in Tati's Theory?
..... R. Kawabe
- Wave Packet Theory of Scattering T. Ohmura
- No. 30. Origin of Cosmic Rays M. Taketani et al.
- No. 31. Structure and Evolution of Galaxies M. Taketani et al.
- No. 32. Emulsion Cloud Chamber and Related Topics Z. Watanabe
- 1965 **Extra Number** (1965). Commemoration Issue for the Thirtieth Anniversary of
the Meson Theory by Dr. H. Yukawa
- No. 33. Jet Showers Analysis.....T. Kobayashi & M. Namiki
- No. 34. Theory of Condensing Systems K. Ikeda et al.
- Proceedings of the International Conference on Elementary Particles 1965 Kyoto
—In Commemoration of the Thirtieth Anniversary of Meson Theory
.....H. Yukawa, S. Sakata & M. Taketani et al.
- 1966 No. 35. The Path Probability Method.....R. Kikuchi
- No. 36. Contribution to the Theory of Linear Chains.....M. Toda et al.
- Nos. 37/38. Dedicated to Professor Sin-itiro Tomonaga on the Occasion of
his Sixtieth Birthday
- 1967 No. 39. Nuclear Forces. I (Introduction by M. Taketani)
- No. 40. Recent Progress in Molecular Physics—*Dedicated to Professor Masao
Kotani on the Occasion of his Sixtieth Birthday*—
- Extra Number** (1967). Experimental Data on Hadron Interactions in GeV
Region..... Y. Sumi et al.
- 1968 No. 41. Theory of Elementary Particles Extended in Space and Time
..... H. Yukawa et al.
- No. 42. Nuclear Forces. II N. Hoshizaki et al.
- Extra Number** (1968). Dedicated to Professor Minoru Kobayasi on the
Occasion of his Sixtieth Birthday
- 基礎物理学の進展 基礎物理学研究所15周年シンポジウム (和文).....
..... 湯川秀樹, 片山泰久 et al.
- 1969 No. 43. A General Survey of the Theory of the Bethe-Salpeter Equation....
..... N. Nakanishi
- No. 44. Spatial Correlation Functions for Quantum Systems.... A. Isihara et al.
- 1970 No. 45. Some Topics in the Theory of Lattice Dynamics..... T. Fujita et al.
- No. 46. Some Topics in Solid State Physics—*To Takeo Nagamiya on his
Sixtieth Birthday*— J. Kanamori et al.

PRICE: per copy (postage included)—括弧内は国内値段

Nos. 1~4	\$ 3.50 each	(個人 : ¥ 700.	学校研究所商社等 : ¥1,050)
Nos. 5~36, 39~45	\$ 3.50 each	(" : ¥ 600.	" : ¥ 900)
Extra Number (1965)	\$ 7.00	(" : ¥ 1,200.	" : ¥ 1,800)
Nos. 37/38	\$ 7.00	(" : ¥ 1,200.	" : ¥ 1,800)
Extra Number (1967)	\$ 7.00	(" : ¥ 1,200.	" : ¥ 1,800)
Extra Number (1968)	\$ 7.00	(" : ¥ 1,200.	" : ¥ 1,800)
No. 46	\$ 9.00	(" : ¥ 1,600.	" : ¥ 2,400)
Proceedings of the International Conference on Elementary Particles 1965 Kyoto	\$ 5.00	(" : ¥ 1,200.	" : ¥ 1,500)
基礎物理学の進展		(" : ¥ 900.	" : ¥ 900)

購読規定 個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるなり(1年間分会費を御支払い下さい。なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として1,000円お支払い下さい。
- ※ 1年間の会費
1st volume 9,600円
2nd volume 9,600円
計 19,200円
(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分おつづても結構です)
2. 支払いの際の注意 なるべく振替用紙をご利用の上御納入下さい。
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合 当会の原則としては、未当を理由なく2 Vol.以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっておりますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合 個人購読中に入会等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合 住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費 学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は1 Vol. 1,800円です。この場合、入会金は不要です。学校・研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡 発行途中にあるvolumeの購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 16—5 (8月号) 目 次

○ T_{λ} 近傍における超流動ヘリウム Film	大見哲巨, 碓井恒丸...	541
○ Anderson モデルにおける Hartree-Fock 解の 不安定性及び s-d モデルとの同等性について.....	沢田克郎, 柴田文明...	550
○ Two-Band Approximation による不規則格子の電子状態 I ——状態密度と易動度——.....	清水立生, 渡辺一郎...	560
○ 資料 物性若手グループニュース <就職問題特集号>.....		579
○ 人のうごき		603
○ ニュース		603
○ プレプリント案内		604
○ 海外だより		605
○ 正 誤 表		608
○ 掲 示 板		609
○ 東京大学物性研究所研究会「液体金属の構造と物性」報告		610
○ 編 集 後 記		767

物 性 研 究 16—5 (8月号) 目 次

○ T_{λ} 近傍における超流動ヘリウム Film	大見哲巨, 碓井恒丸...	541
○ Anderson モデルにおける Hartree-Fock 解の 不安定性及び s-d モデルとの同等性について.....	沢田克郎, 柴田文明...	550
○ Two-Band Approximation による不規則格子の電子状態 I ——状態密度と易動度——.....	清水立生, 渡辺一郎...	560
○ 資料 物性若手グループニュース <就職問題特集号>.....		579
○ 人のうごき		603
○ ニュース		603
○ プレプリント案内		604
○ 海外だより		605
○ 正 誤 表		608
○ 掲 示 板		609
○ 東京大学物性研究所研究会「液体金属の構造と物性」報告		610
○ 編集後記		767